

愛ちゃん と 希望くん



やわたはま

# 社協だより

# 65

平成 29年 1月 1日

《発行》社会福祉法人 八幡浜市社会福祉協議会 八幡浜市松柏乙 1101 番地

八幡浜市保健福祉総合センター2階 TEL 23-2940 FAX 23-0506

ホームページは [八幡浜市社協](#) まで



## 謹賀新年



新年明けましておめでとうございます。地域住民の皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、社会福祉協議会の事業推進につきまして、多大なるご支援ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

平成27年度に介護保険法が改正されて以降、私共は地域の皆さまと共に、地域で支え合う形を模索してまいりました。今後も、誰もが安心して暮らせる八幡浜市としてあるべき姿を目指し、地域の皆さまと共に邁進してまいりたい所存でございます。

本年は酉年です。一つひとつの出会いと笑顔を大切にしながら、皆さまにとりましても、更なる飛躍の年となりますよう、お祈りいたします。本年も、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



健康クラブ 外出行事で「みなと湯」へ



ふれあい・いきいきサロン 福寿会（日土）  
布ぞうり作りに大城市長訪問



福祉教育 江戸岡小学校4年生  
耳の間こえと手話を学ぶ

八幡浜市社会福祉協議会  
会長 菊池 清之



# 平成28年度 アクティブボランティア養成講座 全5回終了! 「地域の担い手」育っています

平成28年9月28日(水)～11月2日(水)まで全5回、「平成28年度アクティブボランティア養成講座」を開催しました。平成27年度修了生であるフオーアアップ研修生を含む27名が講座を修了しました。

今回の講座では、近隣の見守りや助け合い、地域の支え合い活動を行う上で必要と思われる基礎知識を学んでいただくこと以外に、「自分のできるこ

座を修了しました。

今回の講座では、近隣の見守りや助け合い、地域の支え合い活動を行う上で必要と思われる基礎知識を学んでいただくこと以外に、「自分のできるこ

第1回	開校式・八幡浜市の高齢者・介護保険の現状 ・ボランティア活動について ・ワールドカフェ「こんな八幡浜市になればいいな」
第2回	楽しく活動していくために ・介護の基本倫理から対応方法を知る ・元気で健康に過ごせるために…はつらつ介護予防体操
第3回	認知症の理解 ・地域で暮らし続けるために…「新しい旅」のはじまり ・成年後見制度について
第4回	すぐに役立つ介護講座 閉じこもりがちな高齢者を引き出すテクニック ・愛媛県在宅介護研修センターの見学、体験
第5回	自分にできることから地域活動 修了書授与・閉講式 ・シルバー人材センターの役割と現状 ・支え合いを形にしてみよう!
オプション	市内4カ所の施設訪問、活動の場見学体験コース ・八幡浜市内のサロン活動 ・グループホーム ・デイサービス ・寄り合いカフェ

とから始めたい」「何ができる?」というそれぞれの想いを繋げるために、毎回グループワークを取り入れました。受講生みんなの想いが1つになると共に、受講生間の交流の機会にもなり、「いろいろな意見が聞けて、楽しかった」と好評でした。

## 理解→実践へつながる講義

平成27年度から始まった本講座ですが、本年は新たな講義を企画しました。

第2回のケース「アステーション」ますほ(宇和島市津島町)代表取締役 山村千代美 氏による講義では、介護の基本倫理や自立支援と、個人の尊重(人権・人格の尊重、その人の人生の尊重、自己決定やプライバシーの保護)、コミュニケーション技術について学びました。

第3回には、認知症の理解推進のために今年度新たに立ち上がったグループ「わたがし」(八幡浜市)の方より、お話いただきました。認知症を「新しい旅の始まり」と見立て、認知症による症状や周りの関わり方を旅の一場面に置き換えながら、分かりやすく対応方法を伝えていただきました。

オプションでは、見学だけでなく一緒に体験していく内容を企画しました。サロン活動からは地域活動の魅力発見、グループホームやデイサービスでは認知症の方との交流を通して理解を深める等、有意義な機会となりました。

集 特  
お互いさまで、支え合い  
第3回  
支え合い、一歩一歩

介護保険の改正に伴い地域の支え合いの形が見直されています。これから八幡浜でどう展開していくのか、特集で追いかけていきます。

回答者：生活支援コーディネーター 前川恵美子氏

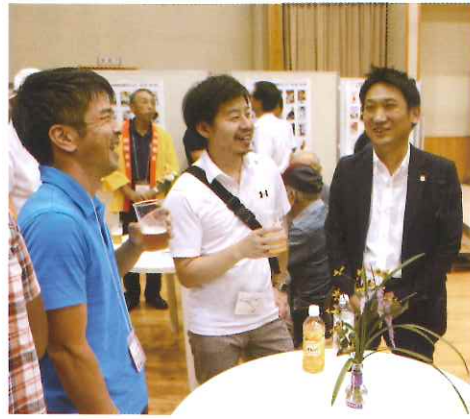
### 養成講座開催までの経緯は?

この養成講座は、介護保険法の改正をきっかけに、平成27年度から始まりました。5年後、10年後に住み慣れた地域、住み慣れた八幡浜で誰もが「ここに住んでよかったと思える地域づくりを進め、住民同士がお互いさまの精神で自分ができることは何かを考え、実践できるように」と、開講しています。

### 講座修了生の今後の展開は?

修了生には個人ボランティア登録をしていただきましたので、自分のできることから、緩やかなボランティア活動を行っていただいています。それぞれ経験を積みながら自信を付けていただき、今後は個々が地域の中でできることを一緒に模索しながら、介護保険だけでなく広く生活支援に携わっていただきたいと考えています。

# 第4回赤い羽根共同募金チャリティー パーティ in 八幡浜を開催



お酒も交えて、会話に花が咲く

平成28年9月9日(金) 19時〜20時半、道の駅みなと内みなと交流館にて、第4回赤い羽根共同募金チャリティーパーティ in 八幡浜を開催しました。187名にチケットを購入いただき、当日は172名の出席を得て、にぎやかに開催することができました。

## ご協力いただいた全ての方に感謝!

このイベントは、25000円のチケットをご購入いただいた方、飲食料品やお楽しみ抽選会の景品、協賛金のご提供をくださったお店や企業など、多くのご支援・ご協力をいただいで開催することができました。



美しい音色が響き渡りました

会の中盤には、アトラクションとして、「フィュー・ドウ・アドルフ・サクソフオーン カルテット」(愛媛サクソフオーン協会会員)の皆さまによる美しい演奏が行われました。「ウイスキーがお好きでしょ」や「ファミリーアニメコレクション」等、参加者誰もが聞き馴染んだ曲をご準備いただき、演奏後には盛大な拍手が起りました。今年も多くの方のご協力により、赤い羽根共同募金に多額の寄付を行うことができました。収支決算報告と協賛店様のご紹介をいたします。

## 第4回赤い羽根共同募金 チャリティーパーティ収支決算

### ▼収入

勘定科目	決算額	摘 要
会費収入	467,500	パーティ参加券 @2,500円×187枚
協賛金	15,000	2件
合 計	482,500	

### ▼支出

勘定科目	決算額	摘 要
飲食料費	221,844	飲料代、オードブル代 他
消耗品費	21,711	お皿等小物代、ガス代 他
雑 費	500	ゴミ廃棄代
合 計	244,055	

収入合計 482,500円  
 支出合計 244,055円  
 差引合計 238,445円

収益金は、全額赤い羽根共同募金へ寄付いたします。

### 協賛店さま一覧(敬称略・順不同)

- (有)菊池本店
- 三和酒類(株)
- サッポロビール(株)
- 日本酒類販売(株)
- 西野金陵(株)
- 霧島酒造(株)
- 媛囃子(株)
- サントリービア&スピリッツ(株)
- 西南開発(株)
- 石油組合 八幡浜支部
- 八幡浜市職員労働組合
- 愛媛銀行 八幡浜支店
- JAにしようわ
- くじらグループ
- イタリアレストラン アマルフィ
- 多機能型事業所 KOHOLA
- メナード化粧品 八幡浜中央販社
- 四国電力(株)八幡浜営業所
- 八幡浜紙業(株)
- (株)あわしま堂
- 宮川菓子舗
- どーや市場
- (株)三瀬商店
- 八西食品(株)
- くいもんや305
- (株)谷本蒲鉾店

# 平成28年度 ボランテニア・ワークキャンプ スポーツを通して「人」「障がい」「生活」を知ろう！

平成28年8月6日(土)・7日(日)の2日間、八幡浜市内の中学生及び高校生を対象に、「平成28年度 ボランテニア・ワークキャンプ」を開催しました。25名の学生が参加し、講義や体験を通して学びました。

## スタートはボランテニア・障がい者スポーツについて学ぶ

八幡浜市ボランテニア協議会の木村謙児会長による、自身のボランテニア活動の原点や日々心がけていること等のお話からスタートしました。その後、愛媛県愛媛国体推進局障がい者スポーツ大会課の佐々木一光 氏より、平成29年10月28日から開催される愛顔つなぐえひめ大会(第17回全国障害者スポーツ大会)についてをテーマにお話いただきました。その中では、大会の趣旨等の説明だけでなく、障がいのある方の生活についてもふれられました。

そして、この日の講義最後には、心理士・メンタルヘルス運動指導士の幸田裕司 氏より、障がいの特性やスポーツの効果についてお話をいただきました。



車いすバスケットに乗って、シュート！

## 何事にも通じる「チャレンジする勇氣」

1日目の午後には、江戸岡小学校体育館にて今治市・松山市で活動している車いすバスケットボールチーム「愛媛WBC」の越智進也 氏、伊藤 司 氏、宮川邦彦 氏にお越しいただき、実際に車いすバスケット車に乗り、ボールを使いながら体験しました。車いすバスケット車に乗るのも初めての学生ばかりでしたが、丁寧で優しい指導を受け、最後には試合に臨むこともできました。

体験の最後に、3名の講師からお話をいただきました。

### 伊藤 氏

自分には障がいはない。理学療法士なので、競技のサポートも行うが、1プレイヤーとしても他の選手と共に楽しく車いすバスケットボールに取り組んでいる。

### 宮川 氏

学生の時に、病気で片足を切断した。元々野球少年でスポーツが大好きだったのでショックも大きかった。障がい者スポーツに出会い、練習や試合はもちろんだが、自分のできる範囲で楽しみながら、このような行事に参加していききたいと思っている。

### 越智 氏

足や内臓等様々な障がいを持って生まれたが、これが自分であり、自分を障がい者だと思つたことはない。車いすバスケットボールとの出会いは、新たな人との出会いも生んでくれた。学生の皆さんも、恐れずに様々なことにチャレンジして行ってほしい。

# 福祉について考え、豊かな価値観を育むために

八幡浜市社会福祉協議会では、市内の小・中学校を中心に、福祉教育に取り組んでいます。平成28年度は、11月末時点で7校に訪問し、16回の講座を実施しました。

## 福祉教育とは

社会福祉問題を取り上げ、ノーマライゼーションの実現に向けて「ともに生きる力」を育む。そして、住民主体の地域福祉推進を目指すこと。

### ※ノーマライゼーション

障がいのある人もない人も、互いに支え合いながら地域でいきいきと暮らしている社会をめざす考え方。

## 保内中学校

### 『福祉コース』の取り組み

保内中学校3年生の総合的な学習の時間では、学年テーマを「豊かに生きる」と設定し、平成28年度より4つのコースに分



参加者全員で輪になり、渡辺氏とやりとり

### 「精神障がい」って、なんだらう

えひめ大会では、八幡浜市は精神障がい者によるバレーボールが行われま  
す。2日目には、白浜小学校体育館に  
て、精神障がい者バレーボールチーム  
の愛媛県代表の方や地元チームのメン  
バーにお越しいただきました。学生と  
混合チームを作り、交流試合を行いま  
した。その後、日本精神科医看護協会  
による講座を実施。学生同士で対面にな  
りコミュニケーションしたり、言葉か  
ら受ける印象を道具を使って表現した  
りと、関わり方により心に及ぼす影響

を体感することができました。

講義の最後には(一社)愛媛県精神  
障害者福祉会連合会の事務局長として  
精神障がい者バレーボールに携わられ  
ている安永まどか氏よりお話いただ  
きました。平成26年に選手たちと参  
加した、第69回国民体育大会「長崎  
がんばらば大会」についてふれ、そ  
の時に現地の学生がとても気持ちよく  
迎えてくれたことが印象的だったこと  
を語られました。そして、八幡浜市で  
開催される時にも、ぜひ同じように訪  
れる選手を出迎えてほしいと伝えられ  
ました。

### 参加者アンケート結果より ワークキャンプに寄せて 感想

■長かったようで短かった1泊2日  
でした。将来について考える良い  
機会となり、障がい者の方とふれ  
あえて良かったです。参加して良  
かったと思います。

■この2日間、本当に充実した時間  
を過ごすことができました。心の  
ことについて改めて考えることが  
できたし、今までふれることのな  
かった障がい者の方がするスポー  
ツについて知れて、楽しかったで  
す。

■精神障がい者の方があんなに思い  
切りプレイしているのを見て、偏  
見は本当に良くないことだと、一  
緒にプレイする上で感じました。  
また、スポーツは障がいがある方  
でもでき、スポーツを通してここ  
まで交流を深めて、「楽しい」や  
「嬉しい」と思えるんだ、と感じ  
ました。

■障がいに対する考え方が、また少  
し変わったワークキャンプでした。  
将来介護職となり社会に出たら、  
今よりもっと障がいのある方とふ  
れあう機会が増えると思うので、  
今日の経験を活かしたいです。

■私が1番印象に残っていることは、  
車いすバスケットボールです。体

に障害があっても、スポーツをし  
たり、仲間とプレイができたりす  
るんだということを学びました。  
私は正直、障がいに対して少し偏  
見があったけど、今回学んだこと  
を通してその偏見をなくすことが  
できました。これからの生活で障  
がいのある方に何かできることが  
あったら、少しでも協力して、よ  
り良い社会にしていきたいと思  
いました。

■人間はみんな同じだと感じました。  
障がいのある人と関わりを持つこ  
とや、スポーツをしたことは初め  
てでした。でも、僕たちよりもす  
ごかったし、尊敬しました。偏見  
をもつことは、おかしいと思いま  
した。



共同募金の学びを活かし、街頭募金に挑戦

かれて学習しています。その内  
の1つ、『福祉コース』への協力  
依頼をいただき、全9回中5回  
を当会にて受け持ちました。コー  
スを選択した生徒は、13名。「障  
害者や高齢者の生活を知りたい」  
「自分のおじいちゃん、おばあ  
ちゃんとの今後の生活に活かし  
たい」「将来の夢に向けて学んで  
おきたい」等、それぞれに思い  
を持って、学習に臨みました。  
当会担当回では主に、福祉と  
は何か、ボランティアについて、  
障害の理解、寄付の文化につい  
て取り上げました。中にはグルー  
プワークを取り入れ、学生自身  
が主体的に考える機会をもちま  
した。他3回では、川之石高校  
の協力を得て高校へ訪問し、高  
齢者の生活や介護について学び  
を深めました。

民生委員・児童委員さんへインタビュー

「良いつつながりの中で、  
気軽に相談できる人でありたい」



インタビューに対してこやかに  
答えてくださる  
松野文子 民生委員

今年、民生委員制度の源である岡山県の「済世顧問制度」が始まった1917年(大正6年)から数えて、創立100周年の記念の年です。

その節目を前に、平成28年12月には民生委員・児童委員(以下、民生委員)の交代が行われました。また、平成28年10月21日に香川県で開催された「第85回全国民生委員児童委員大会」では、当市から3名の民生委員が表彰されました。

全国民生委員児童委員連合会  
会長表彰

■ 永年勤続民生委員・  
児童委員表彰

- 白浜地区 松野文子氏
- 千丈地区 菊池省三氏
- 神山地区 宮本佐千子氏

100年もの間、地域住民に寄り添い活動を続けてきた民生委員さん。この節目の年に、八幡浜市内で活動している民生委員松野文子さんにインタビューし、日頃の活動について教えていただきました。

Q 松野さんが民生委員になられた経緯・きっかけを教えてください。

私は、大阪に勤めに出てから3年後、地元八幡浜市に戻り、市役所の臨時職員や市内の企業で勤めながら、主人とともに3人の子どもを育ててきました。民生委員になるきっかけは、仕事から身を引いた際に受けた前任者からの声かけでした。そのお話を聞いた時、元々福祉に興味がありましたので、早々に後任としてお引き受けすることを決めました。前任の方がとても立派に務め上げられましたので多少の不安はありましたが、実践しながら活動内容を覚えていこう、と感じていたら、当時を思い出します。

民生委員は1期3年の活動期間ですが、私はお引き受けしてから6期18年の間、担当地区の民生委員を務めてきました。その内6年間は、白浜地区民生児童委員協議会の地区会長も務めさせていただきました。

Q 民生委員さんは、どのような活動をされているのですか？

私は、民生委員になってからすぐ、担当地区内の全戸に就任のご挨拶に回らせていただきました。住み慣れた地域であるとはいえ、お伺いするまでは関わることの少なかつた方もいらっしゃると思いますが、「民生委員になりましたので、何かありましたら声をかけてください」と声をかけて回ることで、地区内のつながりを持つように心がけました。

その後は、頻繁にお宅訪問することはありませんが、地区内の方に民生委員として知っていただきましたので、ご本人から、もしくはご本人のご近所の方から相談をいただくことがあります。その場合には、必要な情報提供や機関への連絡調整を行うこともあります。最近はお一人暮らしの高齢者も多いですが、高齢者のみの世帯も増えてきたなと思います。

また、私たちの地区の場合、白浜地区社会福祉協議会の事業の推進には、民生委員の参画・協力がなくてはならない形となっています。一方で、例えばお一人暮らしの高齢者の方への給食サービスであれば、配布する際にその方の様子を伺うことができるので、地域の見守りに役立てられます。

また、私は昨年の11月末まで白浜地区民生児童委員協議会の会長も務め

させていただきましたので、地区内の民生委員さんから相談を受けることも多かったです。その悩みにどう対処すべきか、共に悩みながら取り組んできました。その甲斐もあり、福祉サービス等について勉強になり、自分自身の成長にもつながったと感じます。

**Q 活動の中で、どのような機関や団体、人と、どのような関わりを持つことがありますか？**

地区内の他民生委員から受ける相談の中で多いと感じるのは、生活保護についてです。ご本人の生活を心配したご近所の方から連絡が入り、そこから地域包括支援センターや八幡浜市役所社会福祉課内の生活保護係につながります。また、精神的に不安がある方には保健センターの保健師さんと連携することもあります。八幡浜市社会福祉協議会とも、様々な事例を通して相談・連携をしていますね。

その他にも、八幡浜市には「見守り推進員」があり、各民生委員と連携しながら地域の方の見守りを行う仕組みとなっておりますが、私の地区でも一緒に訪問に伺う等して連携を心がけています。



**Q 地域の方と関わる上で、工夫や心がけていることはありますか？**

頻繁に訪問せずともご近所さんなので、道ですれ違った時などには「お元気ですか」と気軽に声をかけています。そうすると相手の方からも「ありがとう」と言っていたとき、良いつながりを感じますね。何かあった時に連絡ができる人として認識してもらえらるよう、無理のない形で良い関係作り、つながり作りを心がけています。

**Q 活動の中で、気になること、心配なことなどはありますか？**

民生委員は、厚生労働大臣から委嘱された立場なので、守秘義務を有しています。地域の方から相談していただいた内容について、みだりに他者へ伝えることはありません。一方で、個人情報保護の観点から、支援を必要としている人の情報が入りにくいと感ずることもあります。把握できたとしても、プライバシーにどこまで踏み込んでいいのか、悩み戸惑うこともありますので、難しいところですね。

自分の活動のリスク管理として、地区内の民生委員、見守り推進員の連携を密にし、協力体制を作るように努めています。見守り推進員さんとの活動

の一環で各戸訪問する際にも、できるだけ複数で訪問するようにしています。お宅訪問した際に、返事がない方については、「中で倒れられているのでは…」と心配することもあります。旅行等楽しい予定を過ぎられているならば安心ですが、もしものことを考えてしまうこともありますからね。

**Q これまでの活動の中で、印象深いエピソードがあれば、教えてください。**

すぐに思い当たるのは、私の担当している地域にお住いの方ではないのですが、とある高齢なご夫婦との関わりですね。そのご夫婦は、元々ご近所付き合いの少ない方で、自分たちの生活の不安をお話する方もいなかったようです。そのような中、民生委員活動とは別件で知り合い、ご主人から相談を受けるようになりました。「自分が先立った時、その後の妻の生活が心配だ」という不安のご相談でした。元々地域とのつながりが希薄な方で、お住まいの地区の民生委員さんに相談することもありませんでした。もしものこともありませんので、担当地区民生委員さんへは、必要な情報をお伝えし見守っていただき、相談支援は引き続き私が行うことになりました。その後ご主人が亡くなられ、奥さんは悲しみに暮れていましたが、しばらくして、認知症の

症状が目立つようになりました。徘徊もあり、日頃の地区内の協力体制を活かして探すこともありました。最終的には、お一人暮らしをすることが困難な状況となりましたので、地域包括支援センターへ相談し、施設へ入所することとなりました。

ご主人の想いを引き継いで、奥さんができる限り住み慣れた自宅で過ごすことができるようにと行動しました。民生委員として、このご夫婦の不安や心配に寄り添うように努めた一件だったと思います。

**Q 最後に、地域のみなさんにメッセージをお願いします。**

現在市内に民生委員114名、主任児童委員22名が配置されています。私は長年務めてきましたので民生委員として地域の方に認識していただいていると思っておりますが、やはり、活動に対する地域住民の理解や協力をいただくことは不可欠ではないかと思えます。

また、私たちは高齢者や障がいのある方に対する活動だけではなく、地域で子育てに悩む方々の相談を受ける役割も有しています。何か不安なことなどがありましたら、気軽に相談いただけますと嬉しいです。

# 平成28年度 八幡浜市社会福祉大会

とき / 平成29年1月28日 (土)

場所 / 八幡浜市文化会館ゆめみかん大ホール

誰もが安心して暮らせる地域づくりの実現に向けた活動に、一人ひとりが考え参画する機会と、八幡浜市の社会福祉の発展にご尽力され多大な功績を残された方々に感謝をこめて表彰し、地域福祉のさらなる充実を目指すために開催いたします。

## 時間 内 容

12:30 開場・受付

13:30 開会  
式典 表彰・感謝状贈呈  
他

14:15 記念講演

16:00 閉会

## 記念講演

お気軽にお越し  
ください  
入場無料!

講師 津軽三味線奏者

さわだ ひびき

澤田 響紀 氏

演題

「いきる

～津軽三味線演奏～」

### 〈経歴〉

1991年愛媛県松山市生まれ。神奈川県育ち。

12歳のころに見よう見まねで津軽三味線を独学。

14歳の時に澤田勝紀氏に師事。

早稲田大学国際教養学部で学ぶ傍ら、2013年津軽三味線澤田流名取試験に合格。

卒業後は早稲田大学津軽三味線愛好会<sup>みつどもえ</sup>三津巴で講師としての演奏指導だけでなく、独奏、合奏、バンドサポートなど様々な形で演奏活動に励む。

数々の全国大会で入賞経験があり、津軽三味線甲子園ましろのおと杯で初優勝。2015年にはドイツで開催されたバンド世界大会「エマーゼンザ」にてバンド日本代表として「ninja beats」のサブメンバーとして世界一に輝く。

また、同2015年、第3回津軽三味線全国大会 in びわ湖の団体戦にて早稲田大学津軽三味線愛好会三津巴を率いて、

本人作曲の「華降り焔」にて団体戦優勝、今年2016

年5月は第35回津軽三味線世界大会団体戦にて同

団体で同じく本人作曲の「暁」にて団体戦優勝を

飾る。現在も国内外を問わず演奏活動中。

